1.運営体制

1）運営組織 …… 8
2）広報 …… 9
3）情報収集 …… 10
4）点検・評価 …… 11

1. 運営体制

1）運営組織

①To-Collabo 推進室

To-Collabo 推進室は、室長、次長、付教員 2 名、専任職員 3 名、地域コーディネーター1 名、特任職員 1 名、派遣職員 1 名及び小田急線「東海大学前」駅前の「東海大学サテライトオフィス　地域交流センター」に勤務する 3 名が所属している。

また、全国に広がる連携自治体との協力関係をより密にすべく、各校舎に「COC 担当窓口」を設置し、清水校舎、熊本・阿蘇校舎、札幌校舎には地域コーディネーターを設け、活動を推進した。

②To-Collabo プログラム運営委員会

湘南校舎に「To-Collabo プログラム運営委員会」を設置、原則月 1 回のペースで、年間合計 12 回開催して、本プログラム全体の年間計画やそれぞれの事業についての審議・承認を行った。また、湘南校舎を除く各校舎における本プログラムの推進を司る機関として、各校舎にも To-Collabo プログラム運営委員会を設置し、各校舎の To-Collabo プログラム運営委員会が主体となって計画したもので、各校舎とその所在地の自治体と連携した取組みである地域志向教育研究経費タイプ 3 に関わる審議・承認・報告等を行った。

③各校舎 To-Collabo プログラム事務担当者連絡会／To-Collabo プログラム推進検討会

プログラムの推進に向けた支援体制を強化するため、2015 年 6 月 17 日（水）に全校舎を TV 会議でつないでの「各校舎 To-Collabo プログラム事務担当者連絡会」を開催し、情報共有を促進した。

また、プログラムの推進に向けた支援体制を強化するとともに、本学の地域連携をどのように推進していくか検討を行い、更なる校舎間連携の強化を図り、全学が一丸となって取り組んでいくという趣旨のもと、2016 年 1 月 22 日（金）に湘南校舎において「To-Collabo プログラム推進検討会」を初めて開催した。当日は各校舎から、To-Collabo プログラムを担当する職員 21 名が参加した。

推進検討会では、木村英樹 To-Collabo 推進室長から本プログラムの現状及び今後の展開について説明を行い、続いて今年度から湘南校舎にて地域コーディネーターを務める鍵和田政美氏が、行政機関での長い経験をもとに、地域連携や本プログラムについて行政の視点と大学に勤めてからの視点で講演を行った。さらに、各校舎における本プログラムの取組みについて発表が行われ、それぞれの校舎における運営体制や学生との係りについて、活動の進捗状況やその中から見えてきた今後の課題について報告がなされた。学生が主体的に取り組んでいる活動も多岐に亘り、学生が積極的に参加している様子や“何のために”このプログラムを推進しているのかという共通認識を教職員全員が持つことの重要性を再度確認することができた。

後半は、発表の内容をもとに、今後の To-Collabo プログラムをどのように展開・継続していくかを検討する全員参加のワークショップを実施した。A、B、C の 3 つのグループに分かれて活発な議論が交わされ、各グループから「学生の視点・

教職員の視点」「顔の見えるつながり」「学生のコミュニケーション能力」といったキーワードが出され、最後にグループの代表者が発表を行った。その中で、学生とともに教職員ももっと地域に出て行くことで新たな発想を得ることでき、その発想をもとにまた新たな活動が生まれ、学生の社会的実践力を養う場の形成、教育的機会の更なる創出につながるという道筋が垣間見えた。また、学生や市民を巻き込みながら運営していく一体性を確保するために、まず教職員自身の意識改革も必要だということを改めて確認することができた。

2）広報

学内外に広く To-Collabo プログラムで行っている取組みを周知することを目的に、ニュースレター「To-Collabo 通信」を発信してきたが、今年度よりデザインを一新し、昨年に引き続き 4 回(Vol.8～Vol.10、PA 型教育特集号)発行した。その他、学内向け周知のため号外を 1 回発行した。

また、Web サイト、Facebook での活動紹介を昨年に引き続き行った。Web サイトについては、地域連携活動の事例データベースである To-Collabo ケースの第 2 期構築に伴い、レイアウトを一部改修した他、東海大学サテライトオフィス地域交流センターのページを To-Collabo の Web サイトに組み込む形で新たに開設した。

[参考:To-Collabo 通信 Vol.8、Vol.9、Vol.10、PA 型教育特集号]
(号外は本誌編集時作成中のため掲載無し)
Web サイト URL ： https://coc.u-tokai.ac.jp
Facebook ： https://www.facebook.com/tokai.coc

3）情報収集

本学の COC 事業における地域貢献活動、教育改革の参考にするため、国内他大学における地域連携の取組みを視察した。視察者は、To-Collabo 推進室課員のみならず、To-Collabo プログラム運営委員会委員や本学各部署の教職員である。以下は視察の概要である。

【視察先 1：2015 年 7 月 17 日（金）筑波学院大学】

概 要：平成 17 年度より学生の社会力育成のために「つくば市をキャンパスにした社会力育成教育」と題して地域連携による教育を推進しており、実際の担当教員等から取組説明を受けて意見交換等を行った他、地域の子どもの見守り活動などの実際の活動の視察、学生との意見交換も行った。

【視察先 2：2015 年 12 月 18 日（金）名古屋学院大学】

概 要：本学と同様に平成 25 年度大学 COC 事業に採択された名古屋学院大学の学生による地域活性化活動の 1 つであるマイルカフェの視察の他、地域志向科目等のカリキュラム編成に関する事項やさまざまな事業に関する情報交換を行った。

【視察先 3：2015 年 12 月 19 日（土）龍谷大学】

概 要：「龍谷大学社会連携・社会貢献活動報告会 2015」での情報収集活動

・記念講演（株式会社 CAP 代表取締役社長　樫野孝人氏）

・事例紹介（学生と教職員が地域の課題解決に取り組んだ事例紹介）

・ポスターセッション

【視察先 4：2016 年 1 月 29 日（金）静岡県立大学】

概 要：「大学・地域共創シンポジウム」での情報収集活動

・基調講演（異文化コミュニケーター、旧国連ハビタット親善大使 マリ・クリスティーヌ氏）

・パネルディスカッション（テーマ：地域の健康を『幸福度』で計る）

【視察先 5：2016 年 2 月 27 日（土）～28 日（日）高知大学】

概 要：平成 27 年度 COC／COC+全国シンポジウム「大学改革と機能別分化～地域における大学の存在意義の高まりと将来のあり方」での情報収集活動

・基調講演（明治大学農学部教授　小田切徳美氏）

・パネルディスカッション（まち／ひと／しごと分科会）

・事例報告

【視察先 6：2016 年 2 月 29 日（月）高知工科大学】

概 要：高知工科大学が取り組んでいる地域貢献活動の取組みの視察及び担当教職員との意見交換を行った。

高知工科大学 香美キャンパス

4）点検・評価

①地域志向教育研究経費の採択審査（2015 年 5 月実施）

To-Collabo プログラム運営委員会の下に設置された採択審査委員会にて提出された応募書類の内容に対して評価を行った。評価は各委員が（1）どのような課題に取組み、現在の状況をどのようにして解決・改善していくかが明確かつ具体的に記載されているか、（2）取組みの内容が「地域の活性化、地域への貢献を目的とし、地域を志向した教育の推進につながる活動」という To-Collabo プログラムの趣旨を理解した上で考案されているか、といった視点から評価点とコメントの付与を行い、採択審査委員会において各取組課題に優先順位を付けた上で、学内外の委員で構成される To-Collabo プログラム評価委員会へ上程した。

To-Collabo プログラム評価委員会では、採択審査委員会による評価結果に基づき、地域、4 計画 8 事業、金額等のバランスを勘案した上で、取組みの採択案を作成して To-Collabo プログラム運営委員会へ上程し、同委員会における審議を経て、採択される取組課題と配算額が承認された。

②地域志向教育研究経費に採択された取組み及び大学推進プロジェクトの成果に対する評価（2016 年 3 月実施）

To-Collabo プログラム運営委員会の下に設置された採択審査委員会から選抜した成果評価メンバーが地域志向教育研究経費に採択された取組課題及び大学推進プロジェクトの代表者から提出された「成果報告及び自己評価」を、（1）計画通りに進んだか、（2）どれだけの成果が得られたか、という視点から評価点とコメントの付与を行い、その評価結果について To-Collabo プログラム評価委員会が、（1）その評価結果・評価方法の妥当性についてのコメント、（2）次年度の募集・採択された取組みの実施に向けたコメントの付与を行った。

（To-Collabo プログラム評価委員会から付与された主なコメント）

・取組件数は、全体としては昨年度と同程度の活動実績であり全体的に良好である。
・今年度より、地域志向教育研究経費と、4 計画 8 事業の中で大学が推進していくべき事業の 2 種類に分け、採択・実施していることは、本計画を推進する上で新たな展開を見せている。
・安心安全に関する取組みや地域産業による経済の活性化などブランド創造の取組み、更には地域観光の取組みなどの地域にマッチした取組みは、高い評価を得ておりとても良い。

③To-Collabo プログラムの進捗状況に対する評価（2016 年 3 月実施）

To-Collabo プログラム評価委員会が、To-Collabo プログラムの「進捗状況報告」の内容に対して、（1）本プログラムを効果的・効率的に推進するための運営体制が構築されたか、（2）地域との連携は着実に促進されているか、（3）教養教育の改革へ向けた取組みは着実に進んでいるか、という視点からコメントの付与を行った。

（To-Collabo プログラム評価委員会から付与された主なコメント）

・地域志向教育研究経費に採択された各取組課題の活動は、全体的に適切に実施されていたと思われるが、一部には参加者が教員のみ等、学生教育につながっていないと思われる取組みもあった。
・本プログラムで重要なことは、地方自治体と大学教育の両方の目的・目標が達成されることである。大学のマンパワーに頼るのではなく、地域の発展にどのように貢献しているのか、さらには学生への PA 型教育の広がりに寄与しているのかどうかが重要である。

また、大学評価委員会が、To-Collabo プログラム評価委員会による評価結果をもとに、To-Collabo プログラムの進捗状況に対する評価を行った。

（大学評価委員会から付与された主なコメント）

・To-Collabo プログラムの運営組織、広報活動、情報収集、地域との連携促進、教養教育の改革に向けた取組みなど、活動は全体的に広がりを見せており適切に実施されていることは評価できる。

・To-Collabo プログラムについて、大学内での認知度は広がりを見せているが、未だに教職員の間に温度差があるので検証が必要であろう。

・地域志向教育研究経費では、実施した内容が具体的に地域の発展や学生の教育に寄与しているのかどうか検証する必要があろう。そのためには、評価事項の中に、取組みで得られた成果はもちろんであるが、それ以外の成果（例えば、地域の人を巻き込んでいるか、学生の教育に寄与しているか等）も評価項目とした方がいいのではないか。

・PA 型教育の定着を図るため、大学の組織改編を行ったことは評価できる。今後は、それに伴うカリキュラム改訂や事業終了後の地域活動の定着化など、計画的に着実に実施されることが望まれる。